

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 5年 3月 10 日

事業所名 ナチュラルこどもハウス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		・遊びのスペースと活動のスペースを完全に分けている為、切り替えをしやすく工夫しています。
	2	職員の配置数は適切である	4		・人数がいても全ての動きを把握している人ではないため、指示をする時間が必要となってしまうので事前に伝えてできるようにしています。 ・児童の人数に対して配置数は適切だが、現場経験のない人や入社間もない方の際は少なく思う時はあり、その為それぞれ運携し事前の引継ぎやコミュニケーションも心掛けています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		玄関や室内の段差にはスロープを使用しています。足元の不安定な児童に対して見守りや個別に誘導するな特性に合わせて安全面にも配慮をしています。 ・それぞれの活動にあわせて工夫しながら児童に合わせて環境を整え、日頃より職員間で見直しもしている。 ・特性に応じ、視覚化し(スケジュールや絵カード等を用いた情報伝達)わかりやすく伝えていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎日の清掃・消毒(児童が触れる物は全て)定期的な喚起を行い、活動の区切り(午前・午後)で手が触れている部分は念入りに(ドアノブ・トイレ等)消毒をしています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	今後日頃から担当者による業務改善だけでなくすべての職員が目標設定と日々の振り返りを行っていきけるよう心がけていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		ご協力いただいたアンケート調査の結果を全職員で確認し、業務改善につなげていきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		HPで公開しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	外部評価実施していません。導入について、今後検討課題とします。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	内部・外部研修に参加する機会を感染状況をみながら実施し、内容を全体に報告をすることで情報を共有しています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		保護者様との面談の機会や送迎時に事業所での様子や家庭・園での様子など情報共有し、児童と保護者のニーズを把握し支援計画を作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		資料を参考に作成したアセスメント様式を使用し反映させています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		それぞれの子どもの状況・状態に合わせた支援内容を選択し、具体的にわかりやすい内容を心がけて設定しています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		支援計画に沿った支援を心掛けています。職員間の情報共有を意識しよりよい支援に努めていきます。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		活動プログラムは責任者で決定しているが全体で周知し、児童に合わせてサポートの方法など日ごとに振り分けています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		月間で項目設定し、内容もバランスよく振り返りながら出来るようにしています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	4		個々の成長に応じ、個別・集団活動としての課題を組み合わせて作成しています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		活動内容・当日の動き・役割分担は職員間でその日の朝に確認しています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		4	気づいたことや改善点は支援記録として記入し振り返れるようにしているが、今後も翌朝等で担当者主体で振り返りを行い、共有するように心掛けます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		活動内容や支援について振り返り記録に残しています。今後も記録の内容の検証・改善につなげていきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		モニタリング期間内に支援内容について評価・見直しを適宜行っています。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		主に児童発達支援管理者が責任者・担当者が出席しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1	機会としては少ない。問い合わせがあれば連携をとり情報共有しています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	1	電話やラインを通じて相談支援事業所を中心に関係機関とは連携している児童もいる。主治医との連絡体制は保護者を通して確認している。 今後も共有しながら連携がとれるように努めていきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	1	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		保護者の要望に応じて情報共有しています。また可能な限り支援内容を開示し共有理解を図っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		就学に向けた支援内容の共有は保護者様からの要望が必要で書面にて作成し提供しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		連携として機会は少ないが、各専門機関との連携強化を心掛けていきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4	療育の時間内に交流等の時間は設けていませんが、今後要望があれば検討し、活動内で交流できる機会を作って参加したいと思います。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	2	担当職員で可能な範囲での連絡会に参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	1	連絡帳とその日の送迎時に活動内容や支援等その日の様子を伝達し、必要に応じて保護者との面談を設けています。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		4	送迎時に、必要な児童への声掛けや関わりについてお話をさせていただくこともあります。 ・スキルアップを置りご家族様への支援をプログラム化できるよう努めます。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		見学时・契約時に口頭と書面で丁寧に説明を行うよう心掛けています。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		支援計画は保護者様に確認していただいて同意を得ています。(定期的にモニタリングを実施し支援内容の説明をしています)	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		相談は随時対応しています。必要な際は職員間で検討してから助言や支援を行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		先日親子交流会を開催しました。今後も保護者様同士の連携や意見交換ができる機会を作っていきたいと思えます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		相談・申入れがあった際は内容に応じて早く回答及び検討を行い、意向に沿えるよう心がけています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		毎月、活動の様子としてお写真を添えて個別に発行し行事予定などもお便りを通して発信しています。SNSの発信も増やしていけるようにします。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4		個々に厳重に管理しています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		児童の特性を考えながら、視覚的な情報を用意するなどその都度に応じて配慮しています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	感染状況を見ながら、今後地域の方にも参加していただけるような取り組みを検討していきます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		年度毎に更案し、マニュアルの策定はしているが全てのマニュアルを保護者へ配布し周知としては不足している為、今後対応していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		児童含め月1回避難訓練を実施しています。(地震・火災・不審者)
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		喫約の際に確認しています。また服薬が必要になった際はお薬札を提出して頂き必要に応じて聞き取りを行い確認しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4	アレルギーがある場合は保護者から詳細を確認しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハット・事故があった際は共有と再発防止策を早急に検討し報告書をあげてファイリングしています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1	虐待防止研修とその他社内研修で事例検討会等職員が参加し共通認識できるよう努めています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		内容研修の再確認を行うとともにとやむを得ず行う場合は手続きに沿って進めていきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。